



グリーンだより



今、ニッポンには
この夢の力が必要だ。

団地管理組合法人加古川グリーンシティ
管理組合広報委員会
グリーンシティ自治会
管理事務所 ☎425-6852
ホームページ <http://www.greencity.gr.jp/>
メールアドレス kanrikumiai@greencity.gr.jp



第29期管理組合理事候補者抽選終了



代表理事任期満了に伴い、F棟で1名を理事長推薦で選出し、残るB棟2名、D棟1名、E棟1名の代表理事候補者を公募しましたが、立候補者がなかったため、各棟の代表理事候補を選出するにあたって、それぞれの棟から代表理事1名につき5名の方を抽選により選出しました。選出された方(案内を配布)は9月21日(土)午後7時から集会所ホールで開催する「理事候補者選出会議」に必ずご出席ください。当該の5名の話し合いで1名の候補者を選出していただきます。管理組合は、区分所有者全員で構成する組織です。組合員である以上、その運営を他人任せにすることはできません。自分や家族が住む加古川グリーンシティを少しでも「住み良いマンション」にするため、ぜひ積極的に参加をお願いします。

自治会からのお知らせ

自治会役員が決定しました

来期の自治会役員を募集していましたが、立候補者が定員14名(4名留任)に満たなかったため、管理規約の「自治会運営細則」に基づき、9月7日(土)午後7時から集会所ホールにおいて公開抽選会を行いました。

選出された方々(14名)には別途ご連絡しますので、一年間よろしくをお願いします。

抽選対象箇所および人数

対象	人数	対象	人数
A棟 2～7階	1名	D棟 1～7階	2名
A棟 8～12階 およびG棟	1名	D棟 8～14階	1名
B棟 1～7階	1名	E棟 1～7階	2名
B棟 8～14階	2名	E棟 8～14階	1名
C棟 1～7階	1名	F棟 1～5階	1名
C棟 8～14階	0名	F棟 6～10階	1名

環境整備委員会からのお知らせ

防災井戸コミュニティ広場の、防災井戸の水質改善対策として8月19日より井戸の再掘削をしました。その結果ほぼ満足できる水質を確保でき、床面の現状復旧工事も9月10日に完了しました。

自治会、防災会で各種の助成事業等の活用によりベンチ、時計、発電機などの備品も設置できました。今後皆さんと共に防災井戸コミュニティ広場をより良い施設にしていきたいと思ひます。

修繕委員会からのお知らせ

給水設備更新工事が9月9日よりスタートしました。安全第一で工事を進めていきます。工事中は通行制限や断水の発生など、住民の方にはご不便をおかけしますがご理解、ご協力をお願いします。

ベランダの排水口清掃について

ベランダやバルコニーの排水口は定期的に掃除をしてください。排水口が詰まると、大雨などで行き場のない雨水があふれたり、雨水管の継ぎ目から溜まった雨水が噴き出したりするトラブルが多発します。特にプランターの土やハトの糞を流すと管詰まりの原因になります。ベランダの排水口はこまめに清掃してください。

雑排水管清掃について

例年通り雑排水管の清掃時期になりました。毎年のことですが、清掃を受けない住戸が多数あります。清掃を受けずに排水管が詰まり、階下へ漏水させる事故を起こした場合は、個人で賠償してもらうことになります。事故が起きる前に必ず清掃を受けるようお願いいたします。

ちなみに、ここ3年以上清掃をうけていない住戸数は以下の通りです。

A棟：1軒 E棟：4軒
C棟：3軒 F棟：3軒
D棟：4軒 G棟：1軒



当該者はわかっていると思いますが、これらの住戸が今年も清掃を受けない場合、棟号氏名を公表します。

マンションのような共同住宅は、居住者がそれぞれ協力し合わない生活に支障をきたします。「自分だけが良ければ」という考えはもう通用しません。

やっときゃよかった、やってよかった防災式

三木市から岡山県まで、兵庫県南西部を斜めに貫く巨大活断層「山崎断層」。868年の播磨国地震以来、マグニチュード7級の巨大地震は起きていない。だが、兵庫県は「最悪の場合」として次の想定をする。M8.0、死者約4千人、負傷者3万人、全半壊20万棟。震度7～6の被害は、姫路市など播磨全域から神戸、阪神間まで25市町に及ぶ。30年以内の発生確率は国の最新の長期評価で「最大0.01%」に下方修正されたが、油断こそが最大の敵であることを、阪神・淡路大震災、そして東日本大震災で私たちは思い知らされた。

「山崎断層大地震に迫る(8/19 記事)」

以上の文章から始まった神戸新聞『そのとき、何が山崎断層大地震』の連載特集。記事の中には、多くの想定が盛り込まれ、「想定」以外のリスクやハザード、一般に伝えられていない情報の存在等も盛り込まれた素晴らしい内容でした。

この特集から今回の防災式を考えたいと思います。

◆シリーズ「あなたならどうする？」パート9

少しの疑問を抱いた「山崎断層?」。山崎断層と言う名の断層は存在しないのでは?と調べてみた。『山崎断層帯は、岡山県東部から兵庫県南東部にかけて分布する活断層帯である』と記されている。正確に言えば、山崎断層帯は、那岐山断層帯(津山北方断層・那岐山断層)、山崎断層帯主部(北西部:大原断層・土万断層・安富断層・暮坂峠断層、南東部:琵琶甲断層・三木断層)、草谷断層の起震断層に区分されています。

私自身、新聞記事を信用している方ですが、少しだけこの特集記事の根拠となっているものを探してみました。



多分、平成25年7月19日発表、地震調査研究推進本部・地震調査委員会の「山崎断層帯の長期評価(一部改訂)」見直しからではないかと推測しました。それを読んでいく中で、更に気になることを発見しました。確かに、山崎断層帯南東部は、地震発生確率「0.03%~5%」だったのが「ほぼ0%~0.01%」になっています。しかし、山崎断層帯北西部では「0.06%~0.8%」から「0.09%~1%」に引き上げられています。また、1回のずれの量は、南東部が「2m程度」から「3m程度」に、北西部に於いては「約2m」から「2~5m程度」と大幅に上方修正されているのです。この事実を知っても、あなたは「下方修正された」と思いますか?勘違いしないでください。記事が間違っているということではありません。紙面には、書ききれないことが多いということも事実

なのです。記事には「油断こそが最大の敵である」とも記されています。そうなのです!今現在の油断が将来に於いても、今は大丈夫と注意を怠る「油断文化」が代々受け継がれてしまうのです。これは、阪神淡路大震災や東日本大震災でも当てはまってしまったのです。

では、油断しない文化を創る為にはどのようなことをすれば良いのか?一緒に考えてみましょう。

今年は全国的に、シェイクアウト訓練(一斉防災行動訓練)が各地で開催されたようです。シェイクアウト訓練は、2008年に防災関係者らの発案でスタートした米国最大の防災訓練です。地震災害発生時に重要で、かつシンプルな「安全行動の1-2-3」をとります。この行動は「Drop(姿勢を低く!) Cover(体・頭を守って!) Hold on(揺れが収まるまでじっとして!)」と呼ばれ、子供から大人まで誰でもできる基本的な安全行動と知られています。

ここで大切なことは誰もができる行動だということです。思い出せば、私が小学生の頃の防災訓練といえば、



- ①ドロップ:まず低く!
- ②カバー:頭を守り!
- ③ホールド・オン:動かない!

先生が「はい、みなさん地震です。机の下に隠れて!」でしたよね。身の守り方は世界共通なのですね。

私たちグリーンシティ防災会は、シェイクアウト訓練と合わせて「あなたの家のシェルター(安全地帯)を探せ!」を提案しています。

あなたの家のシェルター(安全地帯)とは、地震が発生したとき、ここに逃げれば大丈夫!ここにいれば大丈夫!



道路標識「安全地帯」

「倒れてこない・落ちてこない・ケガしない」そんな自宅の安全地帯「シェルター」を普段から作っておくことを推奨します。この場所だけは、何も倒れてこないし、落下する物がない場所を確保しておくことです。もし、緊急地震速報が発報されたら「すぐにシェルターへ逃げこむ」。そんな習慣が、あなたとあなたの大切な人を守ることにになります。家族全員が「シェルターに集合!」と覚えておけば、地震の瞬間、みんなが大きな声で「シェルター!」。普段から「シェルター!」の掛け声で防災訓練ができます。小さな子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまでが簡単にできる行動。

また、シェルターまでの通路も日頃から片付けておく「片付け訓練」をしていれば、更に命を守る力がアップします。結果的に、揺れが襲って来なくても、笑顔で「よかったね」と言い合える、そんな文化を創り上げたいですね。

今回の防災式は「あなたの家のシェルターを探せ!」です。それがあなたとあなたの大切な人を守ることに繋がる「本当の防災」になるのです。あなたも、今この瞬間から、あなた自身のシェルター探しを始めましょう。

グリーンシティ高齢者調査

グリーンシティ自治会では、グリーンシティに居住されている**高齢者(平成25年度に満70歳以上になれる方)**の調査を実施しています。グリーンだよりと一緒に調査票を各戸へ配付しましたので、趣旨に賛同される高齢者の方は調査票の提出をお願いします。

加古川市から「高齢者リスト」が個人情報保護を理由に配付されなくなったため、グリーンシティに居住されている**高齢者の実態が非常に把握しにくい状況**となっています。ご協力よろしくお願いします。

なかよしひろば 敬老記念品贈呈

来る9月28日(土)に集会所ホールで開催される「**なかよしひろば**」において、グリーンシティに居住されている満70歳以上のお年寄りの方々に敬老の記念品(今年は「**とろろ巻き昆布**」)を贈呈します。

必ず以下の時間内に取りに来てください。代理の方でも結構です。

開催日: 9月28日(土)

時 間: 9時30分から12時

場 所: 集会所ホール



中学校PTAからのお知らせ

<中学校運動会のお知らせ>

開催日: 9月21日(土)

雨 天: 9月22日(日)



小学校PTAからのお知らせ

まだまだ暑い中、2学期がはじまりました。みんなで安全に登校できるように、各家庭でもご指導をお願いいたします。

少年団からののお知らせ

楽しかった夏休みも終わり、2学期がスタートしました。少年団では全員集合会に向けて準備を始めています。参加申し込みをしていただいた皆様、ありがとうございました。

<全員集合会のお知らせ>

開催日: 10月20日(日) *雨天中止

開会式: 午前8時20分~

場 所: 氷丘南小学校運動場



こんなこと知ってましたか!?

さて、グリーンシティの敷地内には「砂場」も何箇所か設置されているのを皆さんご存じでしょうか?公園の美観の一つに!というわけではなく、またオーバーな表現では決してなく、子どもにとって**“砂場にまざる遊び道具はまだない”**と云われているぐらい、重要な遊び場なのです。

“砂場遊び”では、砂をどんどん積んで高い山をつくったり、山を崩さないようにトンネルを掘ったり・・・。3歳くらいになると友だちと共同作業で、町や道路、列車の通る線路などもつくれます。あるいは、カップに湿った砂を入れ固めて型抜きし、プリンやケーキをつくったり、上に花や葉っぱで飾る子もいるでしょう。鍋に砂を入れてカレー、シチューなどごちそうづくりができ、ままごと遊びに発展させることもできますね。それに根気強くどろ団子づくりに挑戦する子もいるでしょう。

このように、子どもの遊びをいろいろと広げてくれ実際に砂の感触を身体で味わいながら砂場は面白い!という思いで、頭を使うのに最適の遊び場とされています。それなのにと



ても残念なことに敷地内の砂場で、長時間夢中になってどろんこ遊びに打ち込んでいる子ども達の姿というのを、これまでほとんど見かけたことがありません。

何故なのでしょう?先に挙げた水遊び(先月号に掲載)でビショビショになる程度ならまだしも、砂場遊びには“ドロドロ”がつきもの。もしかして・・・?子ども達がためらいなく、心おきなく“砂遊び”できるようにするためには、いくつかの課題をクリアしなければならいのかな?という気がします。一つは、“親の共感”が必須の条件になるのではないのでしょうか!?まず、汚れても良い衣服に着替えさせて“思いっきり、どろんこしておいで!!”くらいの気持ちで送り出してあげること。そして、帰宅した時は第一声と第二声を逆にしないように・・・ですね。

次の課題は、何より湿り気のある砂・土でないと、子どもの思いは実現も達成もできないので、環境整備委員会の方達に相談し、お願いもしましょう。最後に、遊んだ後の砂場の片付けを個々それぞれが必ずやることを忘れずに!!そして、身体や衣服についた砂・土をきれいにはらって、できるだけおとしてから家に帰ることを習慣化しましょう!!!



ご意見、ご要望などをどしどしお書きください。(ご記名をお願いします)

氏名
フカナ